



# 蔵盛塾通信

## 第20号平成25年2月10日発行

塾長の蔵盛です。今回は「塾の存在価値は？」というテーマで話したいと思います。ご家庭に中1以上のお子さんがおられたら、次の問題を解かせてみてください。（答えは伏せて）先日、蔵盛塾中1数学の授業で指導した問題です。

① 次の方程式を解け。

$$0.6x - 0.3 = -1.9 - 0.2x$$

② 次の計算をせよ。

$$-0.7x - 1.8 + 0.4x - 0.9$$

①の正解は

小数を含んだ方程式であるから両辺に10をかける。

$$\begin{aligned} & \times 10 \quad \times 10 \quad \times 10 \quad \times 10 \\ 0.6x - 0.3 &= -1.9 - 0.2x \\ 6x - 3 &= -19 - 2x \\ 6x + 2x &= -19 + 3 \\ 8x &= -16 \\ x &= -2 \dots \text{答え} \end{aligned}$$

②の正解は

小数の計算であるから小数のまま計算する。

$$\begin{aligned} & -0.7x - 1.8 + 0.4x - 0.9 \\ &= -0.7x + 0.4x - 1.8 - 0.9 \\ &= -0.3x - 2.7 \\ & -0.3x - 2.7 \dots \text{答え} \end{aligned}$$

①（1次方程式）は中1の9月、②（式の計算）は中1の7月に学校で習う内容です。

それらを習った直後は、ほとんどの生徒がスラスラ解けます。しかし、数ヶ月経過した今の時期に、同じ問題を解かせると、次のような誤答が数多く見られます。

①の誤答例

小数のまま解いてしまう

$$\begin{aligned} 0.6x - 0.3 &= -1.9 - 0.2x \\ 0.6x + 0.2x &= -1.9 + 0.3 \\ 0.8x &= -1.6 \\ x &= -1.6 \div 0.8 \\ x &= -2 \end{aligned}$$

間違いではありませんが、  
小数のまま計算すると大変です。

②の誤答例

10をかけて

$$\begin{aligned} & \times 10 \quad \times 10 \quad \times 10 \quad \times 10 \\ & -0.7x - 1.8 + 0.4x - 0.9 \\ &= -7x - 18 + 4x - 9 \\ &= -7x + 4x - 18 - 9 \\ &= -3x - 27 \end{aligned}$$

10をかけるこの“=”が  
成り立ちません。

これらは方程式と式の計算を混同したことによるものです。それを防ぐには、①と②の違いを意識させながら**忘れた頃に復習**させなければなりません。しかし、それを独学で行うのはかなり無理があります。そこで「塾の存在価値」が問われるのです。どんな塾でも、生徒が間違えやすい箇所を忘れた頃に効率よく指導してくれます。高い月謝を払う価値は十分あります。お子さんを塾に入れるかどうか迷っておられる保護者の方、ぜひ塾に入れてみてください（できれば蔵盛塾へ）。

お子さんはきっと独学では得られない何かを習得して、今まで以上に前向きに勉強に取り組んでくれると思います。